

文化遺産保存公開日誌抄

平成25年4月1日～平成26年3月31日

平成25年

- 4. 8 資料閲覧者対応
4. 17 受領資料整理・民具資料館管理業務(除草作業)
4. 18 埋蔵文化財試掘調査(天神島砦跡遺跡地内)
...
10. 25 東部地区文化財担当者会民俗部会(宮代町郷土資料館)



民具資料館見学



教員初任者研修



第11回市史講座

- 11. 2~3 幸手市文化祭「記事の見出しが語る昭和史展」開催(アスカル幸手)
11. 5~7 民具資料館一般公開準備
11. 6 民具資料館見学対応(子ども大学)
...
12. 26 東部地区文化財担当者会民俗部会(白岡市)



文化財パネル展示(文化祭)

平成26年

- 1. 6 資料調査(千塚)
1. 9 民具資料館整理作業
1. 14 埋蔵文化財試掘調査事前打合せ(資料室)
...
3. 31 資料受領(神明内)



榎野地北遺跡の出土遺物

幸手市文化遺産だより 第12号

平成27年3月1日発行
編集: 幸手市教育委員会 社会教育課
〒340-0192 幸手市東4-6-8
TEL 0480-43-1111 内線644
発行: 幸手市教育委員会



幸手市文化遺産だより



VOL.12

● 幸手の民俗行事 一人々が守り伝える地域固有の文化遺産 1

民俗行事を後世に伝える人たち

今回は、幸手市の民俗行事を紹介します。

はじめに紹介するのは、高須賀地区の「高須賀大杉ばやし」という市指定文化財の郷土芸能です。毎年7月の第1日曜日の大杉神社の祭礼で演じられる軽快なお囃子です。神輿の渡御に合わせ太鼓と笛が奏でられ、地域の安全を祈願します。

この大杉ばやしのもう一つの特色は、日ごろから後継者育成に努めていることです。活動は、行幸小学校の郷土芸能クラブで行なう児童への太鼓演奏の指導が中心で、平成8年のクラブ発足から現在まで続いています。

在校生はもちろん卒業した若者たちも、大人たちと一緒に祭礼や郷土芸能大会に参加します。太鼓を演奏する姿はりりしく、日ごろの練習成果が発揮され、笑顔が満ち溢れています。

クラブでの指導は、高須賀地区にお住まいの田中義勇さん、南川和一さん、柿沼一夫さんの三人で始まりました。きっかけは、行幸小学校第18代佐藤一夫校長からの依頼だったそうです。そこに後継者を育て、大杉ばやしの技術を次世代に伝えたいという田中さんたちの熱い思いが響きあい、学校での大杉ばやしの指導が実現しました。

後継者育成に努め、活気ある高須賀の大杉ばやしにも苦しい時がありました。特に笛の演奏技術伝承は難しく、田中さんのお父さんの末寿さん(明治38年生)が60年もの間、たった一人で守っていた時代もあったそうです。田中さんは、この時も後継者を育てようと地元の若い世代の有志を自宅に集め、末寿さんの奏でる笛のメロディーをカセットテープに録音し、それを頼りに毎晩練習を続けました。その時の有志の一人が、現在子供たちの指導を行なう南川さんです。

民俗行事の技術の保存と継承には、こうした日ごろからの地道な取り組みと関係者の熱意が必要だと実感させられます。



祭礼当日の演奏風景(平成26年7月6日)

高須賀大杉ばやし(市指定文化財)



行幸小学校の教室で行なわれている郷土芸能クラブの練習と田中さん・南川さんの指導風景



日ごろの練習成果を舞台上で披露する行幸小学校の子供たち 於: 郷土芸能大会(平成26年10月26日)

### いろいろある幸手の民俗行事

「民俗」とは、人々の伝統的な生活文化のことをいいます。そして「民俗行事」は、親から子へ、子から孫へと世代を超えて伝承され、決まっで行なわれる伝統的な行事です。そうした意味で、市内各地域で今なお行なわれている民俗行事は、地域固有の文化遺産といえます。

市史編さん事業で平成9年(1997)に発行した『幸手市史 民俗編』には、そうした幸手に息づく伝統的な民俗行事について調べた成果がまとめられています。しかし、調査時点は昭和時代の終わりから平成初期です。それから約四半世紀が過ぎた現在、社会状況の変化に伴い、民俗行事を取り巻く状況も変わってきました。

今回は、近年、文化歴史担当職員が現地調査で記録した幸手市の民俗行事を紹介します。

地域の連帯感が希薄になったと言われる昨今の状況を心配する声も多く聞かれます。しかし、調査を通して感じたものは、地域に根付いた伝統的な民俗行事のすばらしさと、それを後世に伝えようとする人々の熱意、そして人と人を結びつける心の絆の大切さです。



社殿に巻き付けられた大蛇 (平成24年8月5日)



鳥居を使って大蛇を編む



長く編まれ参道に伸びる大蛇



正明院まで大蛇を運ぶ蛇引き

#### 戸島上戸地区の蛇打ち・蛇引き

8月盆前、香取神社で30mに及ぶ長大な大蛇を作り、社殿に巻きつけ、8月13日の早朝、正明院まで運ぶ一連の行事。悪い病気が流行したとき、地域にこの病が入ってくるのを防ぐために行なわれたのだという。



広い地区内を歩いて回る子供たちの一行 (平成26年7月20日)

#### 権現堂新田地区のお獅子様

子供会を中心に小中学生の男女が、3頭の獅子や天狗・おかめ・ひょっこ・かっぱの役になり、農家を中心に家々を門付けて回る。明治の初め頃に流行病が広まったためお獅子様を行なったところ、悪い病がなくなったので、それ以来続けられているという。



集会場に集まった地元の人たちの無病息災を祈るお祓い



家の中をお祓いした後で家人にも小遣いは、今も昔も変わらない子供たちの楽しみ



千塚神社境内での舞いの奉納



地区境で行なう露払いの棒術

#### 千塚ささら獅子舞 (市指定文化財)

7月15日に近い日曜日に行なわれる。雄獅子・雌獅子・中獅子の3頭が千塚神社に舞いを奉納した後、地区内を回り、天下泰平・五穀豊稔・悪疫退散などを祈願する。



旧家門前で舞う演目の「花」(平成26年7月13日)

#### 松石ささら獅子舞 (市指定文化財)

7月15日に近い日曜日に行なわれる。大獅子・中獅子・雌獅子の3頭が香取神社に舞いを奉納した後、各家を回り、天下泰平・五穀豊稔・悪疫退散などを祈願する。



香取神社境内で舞う「ハナ」の演目中の「ハンハン」(平成26年7月13日)



中獅子・大獅子・雌獅子の舞い



中獅子とひょっこ

獅子一行の訪問

#### ～散歩の途中で見つけた藁作りの大蛇たち～



神廟



惣新田 九郎右衛門



上宇和田



平野



平須賀

市域の東部には春先から夏にかけて、地区に悪いものが入るのを防ぐため藁で大蛇を作り地区境に置く「辻縄」「辻切り」「春祈禱」という行事が行われています。